

流通科学大学で、製品発売にあわせ GlobalvoiceCALL の運用を開始しました。

流通科学大学

GlobalvoiceCALL

流通科学大学様では、2011年6月の「GlobalvoiceCALL」発売にあわせて、CALL教室にソフトウェアを採用いただきました。かねてより、大学に在籍する学習者の特性にあわせたオリジナル教材を作成し、教育に取り組んでおられます。流通科学大学 商学部 東淳一教授に製品の導入の経緯や期待効果について伺いをしました。

流通科学大学では、2011年度より各学年2時間（1時間は90分）ある必修の英語科目について、1時間はすべてネイティブ・スピーカの先生による授業、もう1時間は Moodle を利用したブレンド型教育を実施しています。ネイティブ・スピーカの先生による授業ではヒアリングとスピーキングに重点を置いた授業が展開されており、ブレンド型授業では TOEIC 風の練習問題を素材として授業が進められていますが、細やかな発音指導をいかに実現するかが今後の課題となっています。この問題に対応するため、本学では HOYA の GlobalvoiceCALL を CALL 教室に導入し、学生の発音指導のために試験利用を開始しました。

このソフトはモデル音声を聞いた上で、個々の学生が同じ音声を発話し、その発音をソフトが評価するというものです。学生が発話した音声、ソフトによる評価の数値データはすべての発話ごとに記録されます。このため、1つのモデル音声の練習を開始してからどのようにその学生の発音が改善していったのかが時間経過とともにわかるようになっていきます。さらに、発音評価は分節音だけではなく、イントネーション、リズムなど韻律についても自動的に行われるため、学生の多面的な発音データが得られます。従来のこの種のソフトになかった最大のポイントは、最初に提供されるモデル音声だけではなく、教員が自由に外部音声をモデル音声として追加できることです。またこれは教員が新たな練習文のテキストのみを追加して、ソフトに付属する音声合成エンジンで合成音を作成することでモデル音声として追加することも可能になっています。このように教材を教員側で自由に追加できるというフレキシビリティがあるため、今後本学での担当の教員による積極的なソフトの利用と効率的な発音指導が期待されています。

[2011.06.18]



流通科学大学

<http://www.umds.ac.jp/>

 流通科学大学